

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 小石 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「言葉の特徴や使い方」に関連して問われていることについては、理解できている面もある。一方で、「話すこと・聞くこと」に関しては、話し手が伝えたいことの本旨を捉えることに苦手意識をもっている児童が多いことが分かった。
	よくできた問題	敬語等の言葉の使い方、自分の考えを書き表す問題
	努力が必要な問題	文章の内容と図表を結び付けて読んだり書いたりする問題

算数	全体的な傾向や特徴など	「データの活用」に関連して問われていることについては、理解できている面もある。一方で、文章問題の中から、示されている関係を的確に理解し、立式・説明することに関しては、課題がある。
	よくできた問題	グラフで示された内容の理解、比例関係について問われた問題
	努力が必要な問題	基本的な図形の性質、分配法則について問われた問題

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを積極的に活用しながら学習できている児童の割合が高い。調べ学習をはじめ、自分の考えをまとめるツールとして、ICT機器を効果的に活用できていることが分かった。 ・学級活動に関しては、周りの意見をよく聞き、よさを生かしながら解決方法を探ることができる児童が多いことが明らかになった。日頃の学級活動に対して、意欲的に取り組んでいることが分かる。 ・自尊感情について問う質問（将来の夢の有無、自分の長所など）に関しては、肯定的に回答をしている児童の割合がやや少ない。学級活動の取組等を通して、互いのよさを認め合ったり、自分とは違う考えを分かり合おうとしたりする心情を育むために継続的に指導にあたる。 ・家庭学習に取り組む時間は、全国の平均回答と比べると、少ない状態である。家庭学習の時間と質の確保に関して、児童と家庭に啓発し、連携を図るようにしていく必要がある。 ・ゲームやスマートフォンを扱う時間（一日当たり）が、全国の平均回答と比べると、多い状態である。家庭と連携しながら、使い方に関するルールの見直しを図る必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・学習の感想や振り返りを、字数制限内でまとめて書くことができるように、学年の実態に応じた手立てを取りながら、各教科等で取り組む。
- ・基礎基本的な漢字の読み書きや、計算問題を中心に、小石タイムを活用しながら全校で継続的に取り組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・テレビの視聴やスマホの使用に関して、各家庭でのルールを再確認する場を設定する。各家庭にも啓発する。
- ・家庭学習の意義や方法について学級活動（3）で指導する。また、学校・学年通信を活用して各家庭に啓発する。特に、高学年に関しては、中学校区共通の自主学習ノート「KOYOノート」の積極的な活用を、より一層推進する。